

岩手県内新入社員の 職業観と生活観

—平成29年新入社員意識調査より—



3～4月にかけて、岩手県内事業所に勤務（予定含む）する新入社員等を対象に無記名のアンケート調査を実施した。

回答者数

383

（男性199、女性184）

当研究所では、毎年、県内の新入社員等を対象とした「職業観と生活観」に関するアンケート調査を実施している。以下はその調査結果をまとめたものである。

〈調査結果の要約〉

- 新入社員の就職活動は売り手市場のなか、女性では厳しさが強まった。
- 勤務先の選択では「堅実性・安定性」や「仕事の内容への興味」を重視している。
- 社会人生活に期待することは「人間関係」や「社会貢献」「能力の発揮」である。
- 働くことについては「仕事も私生活も大事」にし「自分の能力を生かせる」仕事を希望している。
- また「定年まで今の勤務先で働き」、「中間管理職以上を目指す」キャリア志向の割合は年々増加している。
- 社会人生活での不安は「仕事がこなせるか」と「職場の人間関係」が上位となった。
- 職業観・生活観ともに女性の変化が目立ち、「自分の趣味に合った暮らし方」を望む割合が大幅に増加しているほか、結婚の目標年齢を決めていない女性が増加し、10年ぶりに男性を上回った。
- 女性の8割強は条件が合えば出産後も仕事を続けたいとしており、管理職を目指す割合も3割を超えた。

就職活動の厳しさをどう感じるか？

●就活の感想は女性で厳しさが強まる

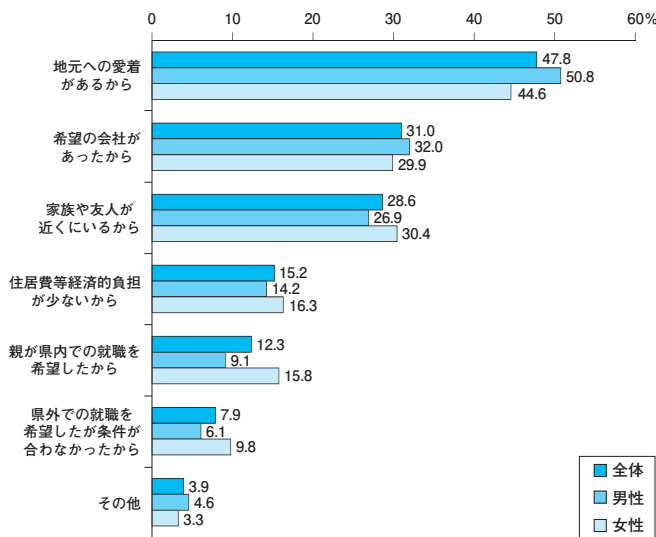
就職活動を振り返った感想は、「大変厳しかった」と「厳しかった」（以下、「厳しい」との回答の合計が52・1%（前年比4・1ポイント増）と過半数を超えた。一方「それほど厳しくなかった」と「楽だった」との回答の合計は全体で45・8%（同3・9ポイント減）と減少した（図表1）。「厳しい」の割合を男女別にみると、男性は46・7%で前年とほぼ横ばいの一方、女性は前年の5割から6割弱に上昇している。

●女性は希望の会社の存在の割合が上昇

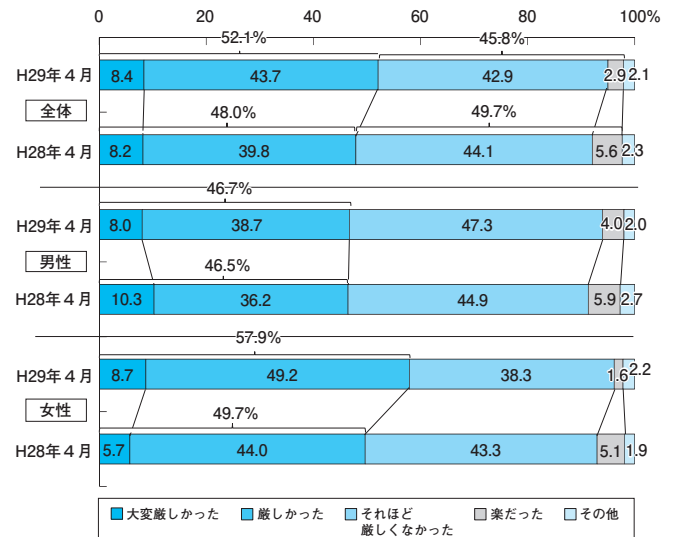
就職先として県内企業を選んだ理由は、「地元への愛着があるから」が47・8%（前年比1・0ポイント減）、「希望の会社があったから」が31・0%（同4・8ポイント増）などの順で、特に女性では「希望の会社があったから」が前年比10・4ポイント上昇している（図表2）。

希望の会社に就職した女性が増加したが、売り手市場といわれた今年の就職環境で選択肢を絞って活動した結果、希望する業種や地域に就職できなかったケースも多く、前問において厳しいと感じた女性が増加したものとみられる。

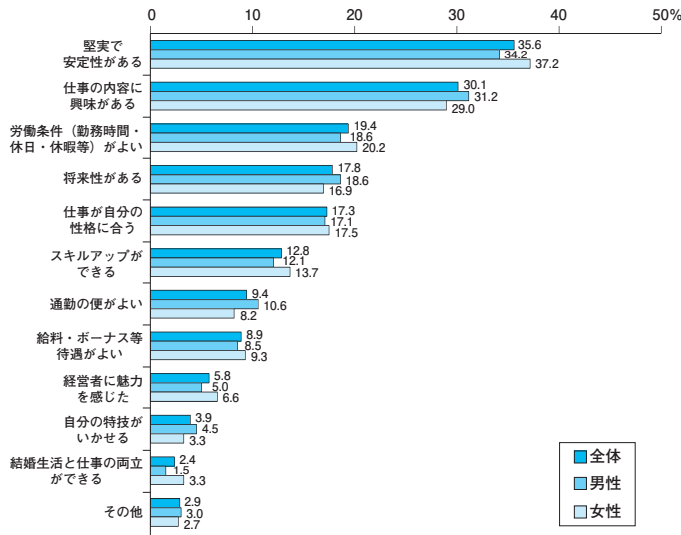
図表2 就職先として県内企業を選んだ理由（2つ以内の複数回答）



図表1 就職活動を振り返った感想



図表3 今の勤務先を選んだ理由（2つ以内の複数回答）



職業観

勤務先選択の理由

●堅実性・安定性と仕事の内容を重視

今の勤務先を選んだ理由は「会社が堅実で安定性がある」が35・6%（前年比2・8ポイント減）、以下「仕事の内容に興味がある」30・1%（同6・5ポイント減）、「労働条件（勤務時間・休日・休暇等）がよい」19・4%（同5・6ポイント減）、「将来性がある」17・8%（同6・5ポイント増）、「仕事に自分の性格に合う」17・3%（同3・6ポイント増）などの順となった（図表3）。勤務先選択にあ

たつては堅実性や安定性を重視しながら、自分の興味のある仕事を選択する傾向が続いている。

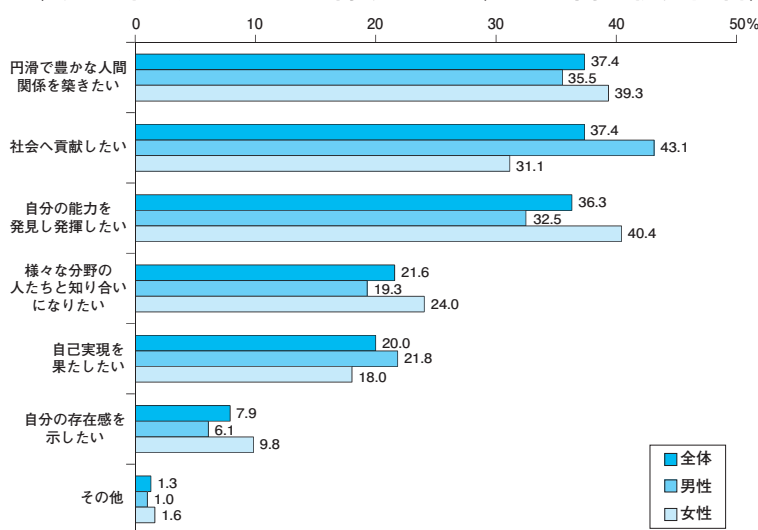
社会人生活に期待すること

●豊かな人間関係と社会貢献、能力発揮

社会人生活に期待することは、「円滑で豊かな人間関係を築きたい」37・4%（前年比7・1ポイント増）、「社会へ貢献したい」37・4%（同1・9ポイント増）、「自分の能力を発見し発揮したい」36・3%（同4・3ポイント増）の上位3項目が突出している（図表4）。

男女ともに「円滑な人間関係」が低下し、

図表4 社会人生活に期待すること（2つ以内の複数回答）



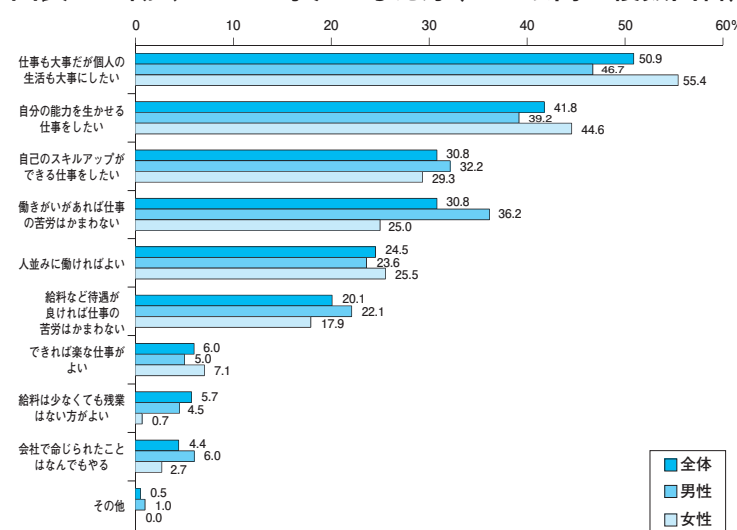
「社会貢献」、「自分の能力の発揮」が上昇しているが、特に女性は女性活躍社会への期待を反映し「自分の能力の発揮」が3年連続で上昇し40・4%と最も高くなった。

働くことについての考え方

●私生活とのバランスと自分の能力の発揮

働くことに対する考え方については、「仕事も大事だが個人の生活も大事にしたい」が50・9%（前年比6・7ポイント減）と最も高く、以下「自分の能力を生かせる仕事をしたい」が41・8%（同3・7ポイント増）、「自己のスキルアップができる」が41・8%（同3・7ポイント増）と最も高く、以下「自分の能力を生かせる仕事をしたい」が41・8%（同3・7ポイント増）、「自己のスキルアップができる」が41・8%（同3・7ポイント増）

図表5 働くことに対する考え方（3つ以内の複数回答）



「仕事をしたがりたい」が30・8%（同12・2ポイント減）となった（図表5）。

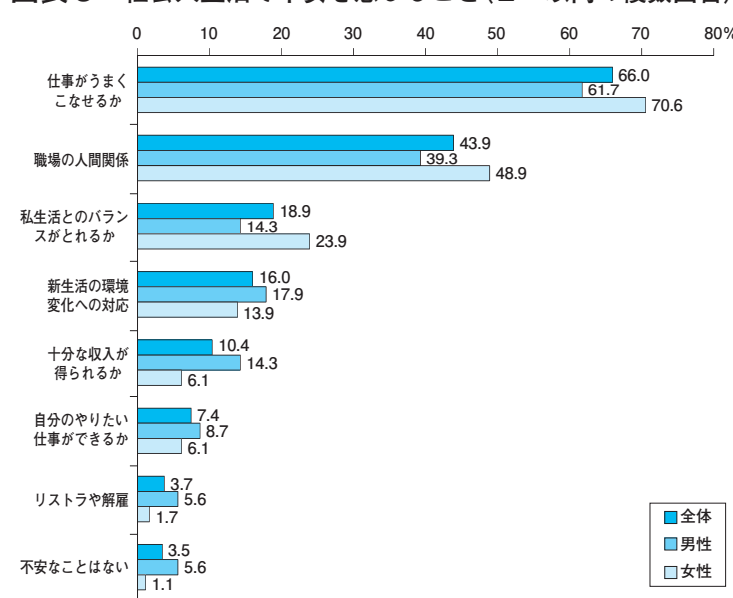
男女で差があったのは、「働きがいがあれば仕事の苦労はかまわない」で男性が11・2ポイント高く、「個人の生活も大事にしたい」では女性が8・7ポイント高かった。

社会人生活で不安を感じることに

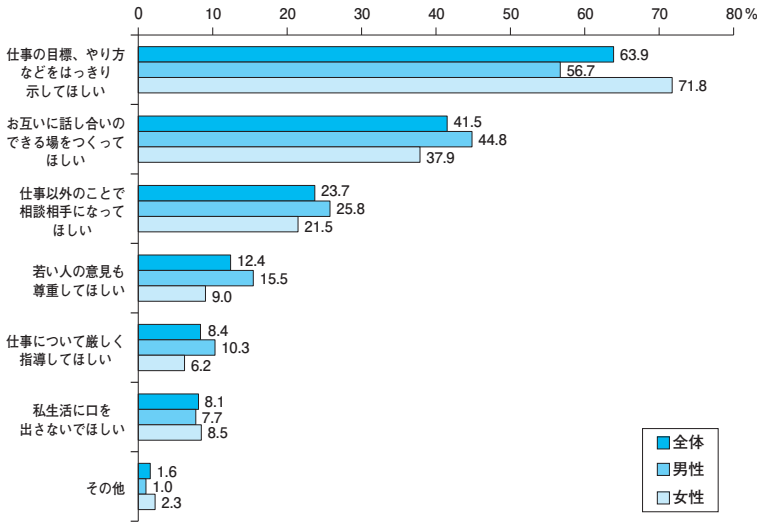
●仕事がかたくなるかと人間関係が上位

社会人生活で不安を感じることは、「仕事がかたくなるか」と「職場の人間関係」の66・0%（前年比5・2ポイント減）と「職場の人間関係」の43・9%（同2・

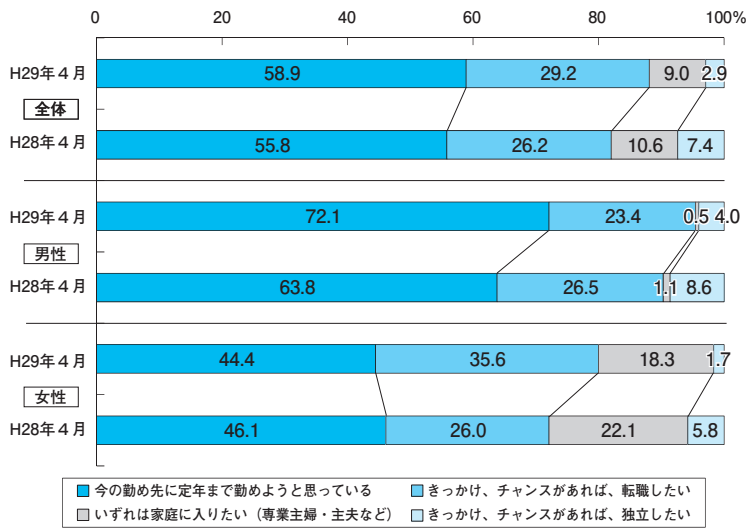
図表6 社会人生活で不安を感じることに（2つ以内の複数回答）



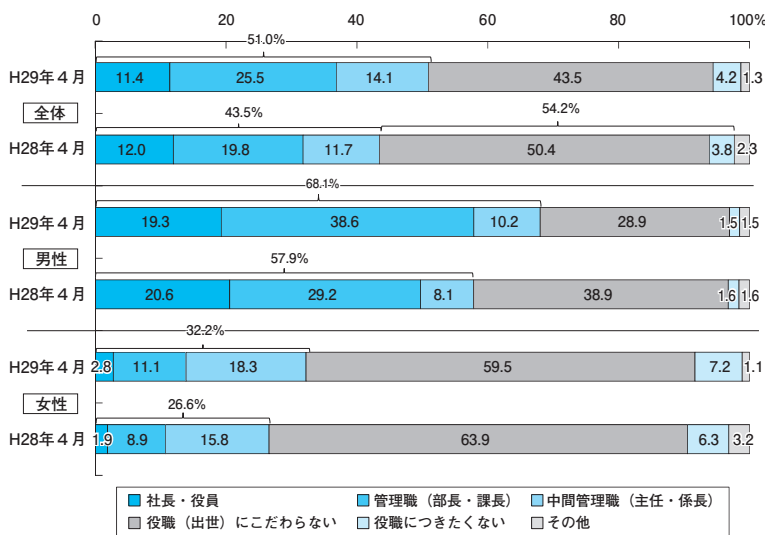
図表7 上司・先輩に望むこと（2つ以内の複数回答）



図表8 定年まで今の職場で働きますか？



図表9 将来目指す役職は？



0ポイント増）で、この2項目が例年どおり男女とも突出している（図表6）。

上司・先輩に望むこと

●仕事のやり方の明確な指示を望む

上司・先輩に望むことは、「仕事の目標、やり方などをはっきり示してほしい」が63・9%（前年比0・4ポイント減）と最も高く、以下「お互いに話し合いのできる場を作ってほしい」41・5%（同10・8ポイント減）、「仕事以外のことで相談相手になってほしい」23・7%（同4・5ポイント増）となった（図表7）。

図表6の質問「社会人生活で不安を感じるこ

と」で上位となった仕事への取り組みや人間関係に対するサポートを期待する回答となっている。

定年まで今の勤務先で働くか

●今の勤務先で定年まで働きたいが増加

定年まで今の勤務先で働きたいと考えるかについては、「定年まで勤めようと思っている」が4年連続で上昇し58・9%（前年比3・1ポイント増）と6割弱を占め、以下「きっかけ、チャンスがあれば転職したい」が29・2%（同3・0ポイント増）、「いずれは家庭に入りたい」9・0%（同1・6ポイント減）、「きっかけ、チャンスがあれば独立したい」

が2・9%（同4・5ポイント減）となった（図表8）。

将来目指す役職は？

●男女ともキャリア志向が強まる

全体では「中間管理職以上を目指す」が51・0%（前年比7・5ポイント増）と過半数を超え、「役職（出世）にこだわらない」など役職に執着しない回答が過半数を占めた前年、前々年の状況から逆転した。

男女別では中間管理職以上を目指す割合は男性が7割弱に上昇し、女性も3割を超えている（図表9）。

◆生活観

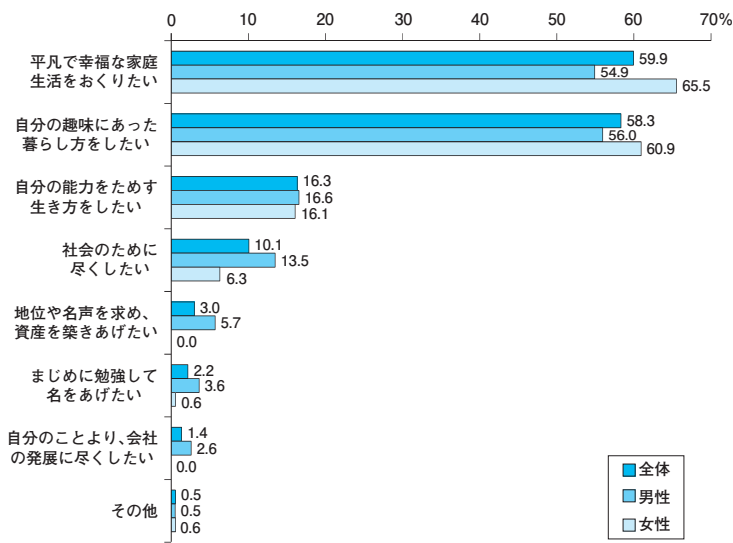
理想とする生き方

●平凡で幸福な家庭と趣味にあった暮らし方

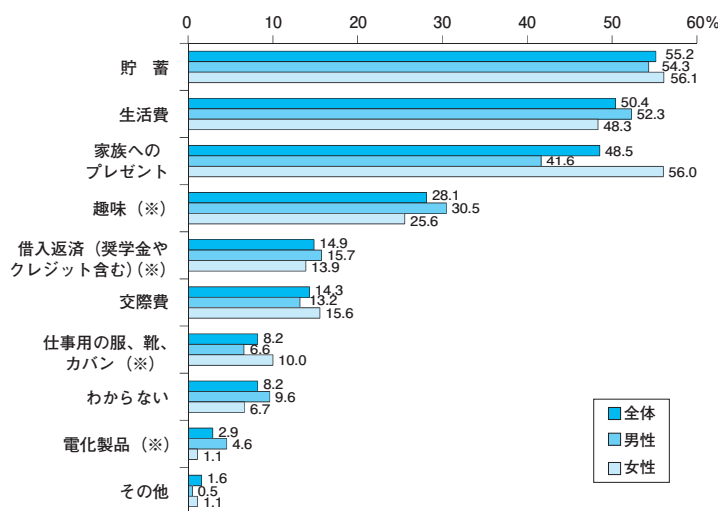
理想の生き方については、「平凡で幸福な家庭生活を送りたい」59・9%（前年比0・6ポイント増）と「自分の趣味にあった暮らし方をしたい」58・3%（同1・9ポイント増）の2項目で大勢を占めた（図表10）。

男女別では、男性は「自分の趣味に合った暮らし方」が最も多く、女性は「平凡で幸福な家

図表10 理想とする生き方（2つ以内の複数回答）



図表11 初任給の使い道（3つ以内の複数回答）



（※）は今回追加した選択肢

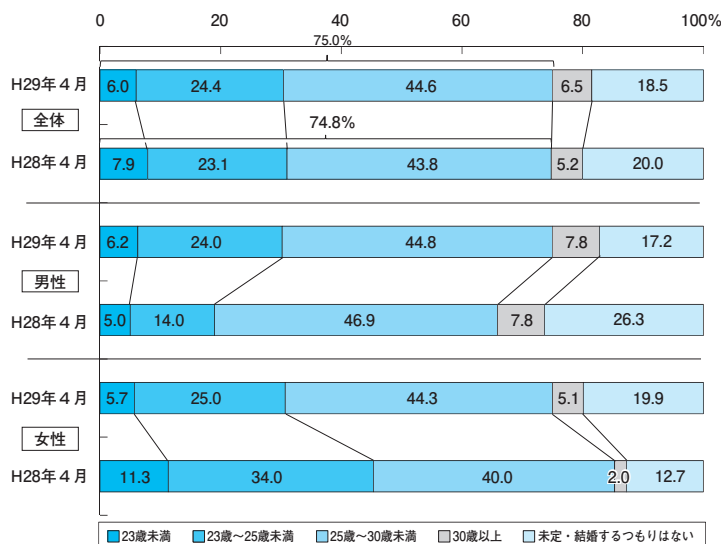
庭生活」が最も多いが、女性では「平凡で幸福な家庭生活」が減少する一方、「自分の趣味にあった暮らし方」は増加傾向が続く、どちらも60%台となってその差は縮小している。

初任給の使い道は？

●1位は貯蓄

初任給の使い道は、昨年3位の「貯蓄」が1位となり、2位「生活費」、3位「家族へのプレゼント」と続いた（図表11）。今回、使い道の選択肢を4項目増やし、選択数を2項目から3項目としたが、追加項目では「趣味」が28・

図表12 何歳ぐらいで結婚したいと考えていますか？



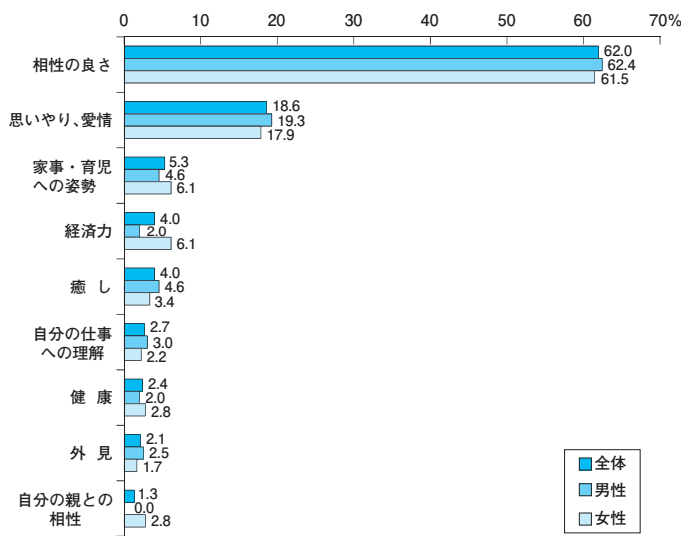
1%あったほか、「借入返済」が14・9%あり、「交際費」を上回った。

結婚について

●女性の結婚希望が減少（男性は増加）

何歳ぐらいで結婚したいかに対し、「25歳～30歳未満」が44・6%（前年比0・8ポイント増）、「23歳～25歳未満」が24・4%（同1・3ポイント増）、「23歳未満」が6・0%（同1・9ポイント減）と、30歳まで結婚したいと考える割合は75・0%（同0・2ポイント増）と前年並みとなった。男女別では、「未定・結婚するつもりがない」が男性で減少

図表13 結婚相手に求めるものは何ですか？



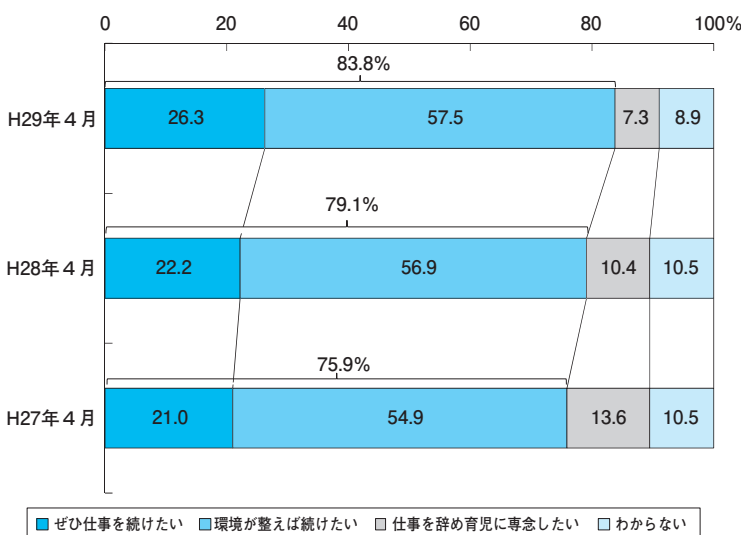
したのに対し女性は19・9%に増加し、平成19年の調査以来10年ぶりに男性を上回った(図表12)。

●結婚相手に求めるものは相性のよさ

結婚相手に求めるものは何かについては、「相性の良さ」が62・0%と最も多く、突出している。以下「思いやり・愛情」が18・6%、「家事・育児への姿勢」が5・3%、「経済力」と「癒し」が各4・0%などの順となった(図表13)。

男女別で大きな差は見られないものの、「経済力」では女性が男性を4・1ポイント上回り、最も乖離が大きかった。

図表14 出産後の仕事の継続(女性に対し)



●女性の8割強が出産後も仕事の継続を希望

女性の回答者に出産後の仕事について尋ねたところ、「ぜひ仕事を続けたい」が26・3%(前年比4・1ポイント増)、「環境が整えば続けたい」が57・5%(同0・6ポイント増)で、あわせて83・8%(同4・7ポイント増)が出産後も仕事の継続を希望している(図表14)。この割合は年々高まっており、出産後も継続勤務を望む女性社員に対する就業環境整備が、より重要になってきている。

就職活動は売り手市場の環境下にありながら、特に女性で前年より厳しいと感じた人が増加した模様である。希望した県内企業への就職ができたとする女性の割合が上昇した一方で、業種や地域のミスマッチから希望が叶わなかったケースも多かったとみられる。

社会人としての職業観・生活観については、ともに男性に比べ女性に変化がみられ、社会人生活では自分の能力の発揮を望む割合が高まり、私生活では自分の趣味に合った暮らし方を望む割合が高まっている。結婚についても目標年齢を決めていない割合が上昇し、10年ぶりに男性を上回った。また女性の多くは出産後も仕事の継続を希望するなど社会への進出意欲が年々高まっており、企業における出産や子育て支援体制の一層の充実が求められている。

新入社員は、うまく仕事をこなせるか、職場に溶け込めるかなど不安を抱く一方、良好なコミュニケーションを求めており、職場の先輩諸氏には意思疎通等、風通しの良い職場づくりに配慮し、新入社員の悩みを受け止め、ともに考え、信頼関係を構築する中で成長に向けて厳しくも温かい指導をお願いしたい。

(副部長 岩渕 啓一)